

MFTXシリーズ
ミラーキャビネット

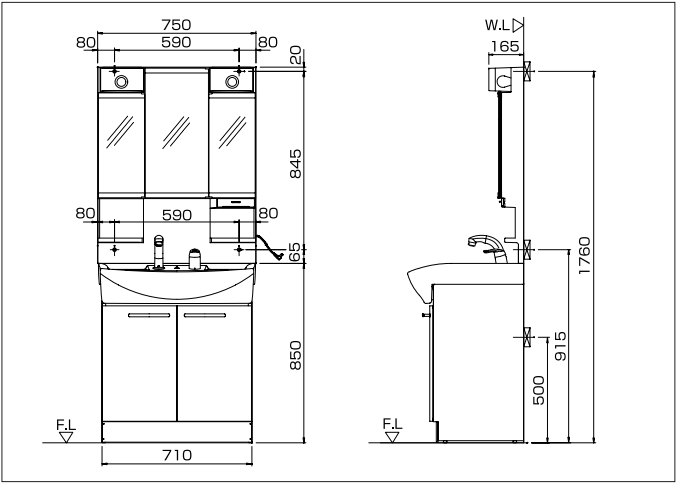
MFTX-753TH

施工される前に

- 施工に際しては、必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
- 「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客様にお渡しください。
- 施工業者様は、商品に欠陥を生じさせる可能性を有しているゆえに、施工業者様が欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分認識いただき、お客様が安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
- 付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

■付属部品

	MFTX-753TH
壁固定用ねじ (φ4.0×50mmトラス)	4本
化粧キャップ	2個
収納トレイ	中央鏡用2個 袖鏡用2個
白熱球	2個 (40W・直径55mm)
電球形蛍光灯ランプ	—
照明カバー	2個
歯ブラシ立て	1個(スタンドタイプ)
取扱説明書 施工説明書	各1部



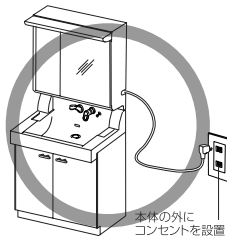
安全のために必ずお守りください

- ここでは施工に際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。
- 用語および記号の説明

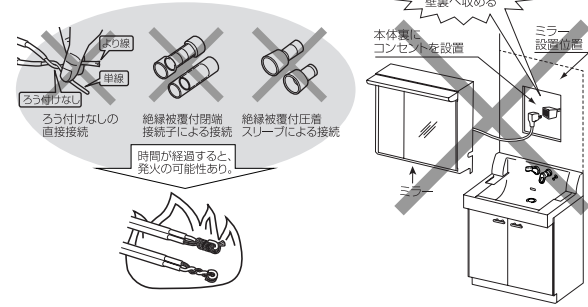
	警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	「 禁 止 」 を表します。
	「 分 解 禁 止 」 を表します。
	「必ず行うこと」 を表します。

警告

- 電気工事は電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規定に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。
※無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こす恐れがあるほか、関係法令により処罰されることがあります。
- 電気工事は必ず分電盤のブレーカーを切って行ってください。
※感電の恐れがあります。
- 改造はしないでください。また、修理技術者以外の人は分解したり修理したりしないでください。
※火災、感電、ケガ、故障の恐れがあります。
- 電源はAC100Vを使用してください。
※AC100V以外を使用すると火災、感電、ケガ、故障の恐れがあります。
- ストーブやヒーター等、熱を発生するものの近くに設置しないでください。
※火災、変形や変色を起こす恐れがあります。
- 標準タイプ(プラグコード付き)の場合
コンセントは本体の裏面には設置しないでください。プラグコードを切断して不適切な直結接続をしないでください。プラグコードを取り外して直結接続をしないでください。直結接続を行う場合は直結仕様タイプ(品番末尾-G)にて行ってください。
※点検・確認ができない場所にコンセントを設けると、万一ホコリや湿気等でトラッキングが発生した場合に火災の恐れがあるため、お勧めできません。
※プラグコードを切断しての不適切な工事は火災、漏電の恐れがあります。
※標準タイプからプラグコードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。



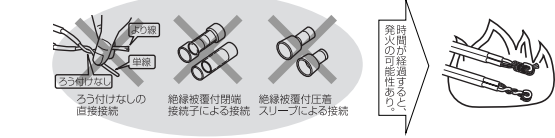
不適切な接続例



■直結仕様タイプ(品番末尾-G)の場合

- 施工の際は必ずこの施工説明書に記載されている直結配線の方法に従って、接続を確実に行ってください。標準タイプ(プラグコード付き)では直結配線をしないでください。
※不適切な接続の場合は、火災や漏電の恐れがあります。
※標準タイプからプラグコードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。

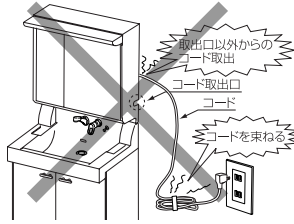
不適切な接続例



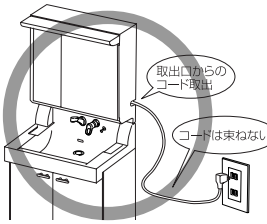
- プラグコードなど各配線に、以下のことをしないでください。
・傷つける。・無理に曲げる。・無理な力を加える。
・束ねる。・重いものを載せる。・挟み込む。
※火災、漏電や故障の恐れがあります。

- 施工の際は、施工説明書の方法に従って取り出し口を作成してからプラグコードを取り出し、キャビネット本体と壁の間に挟み込まないようにしてください。
※プラグコードを本体と壁にかみ込ませてしまうと発熱や発火の恐れがあります。また製品にひずみが発生し、鏡や扉のひずみなど商品に悪影響が生ずる恐れがあります。

●不適切な施工例



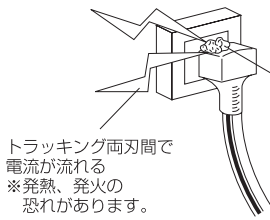
●正しい施工例



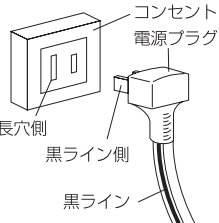
- 電源プラグを抜くときは、コード部分を持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
※火災、感電の恐れがあります。

- 電源プラグをコンセントに接続する際は、電源プラグやコンセントの周辺の木屑、ゴミ、ホコリ等を取り除いて隙間がないように奥まで接続してください。

- ※木屑、ゴミ、ホコリ等がついているとトラッキング現象（電源プラグの刃の間に溜まった木屑、ゴミ、ホコリ等に湿気が加わり、両刃間で放電され、樹脂部が炭化し導電路が形成され発熱、発火する現象）が発生し、火災の恐れがあります。



- 電源プラグをコンセントに接続する際は、電源コードの黒ラインが入っている側の刃をコンセントの長穴側に接続してください。
※電源プラグの刃を逆向きにコンセントに接続すると電球を交換する際にソケット部分に触れると感電の恐れがあります。



- 浴室内等の高温多湿場所へは放置しないでください。
※感電や漏電の恐れがあります。

注意

- この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は、壁の施工のやり直しを行ってください。
※キャビネットの取付強度が保てず落下する恐れがあります。
- キャビネット取付壁面の不陸が5mm/2mを越える場合は、壁の施工のやり直しを行ってください。
※不陸があるまま施工すると、鏡がひずんだり割れたりする恐れがあります。

お願い

- 直射日光が当たる場合は必ずカーテン等でさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
※変色や変形の原因になります。
- 酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類・ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して、キャビネットを拭かないでください。
※変色や変形の恐れがあります。

施工前の確認

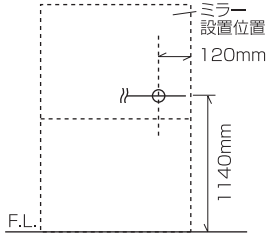
1. 電源の確認

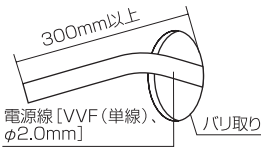
警告

〈直結配線タイプ(品番末尾「-G」の場合)〉

- 施工前にあらかじめ下記の所定位置に電源線[VVF(単線)、φ2.0mm]が取り出していることを確認しておいてください。

- 電源線の有効長さが300mm以上であることを確認してください。
- 穴あけした端部のバリがとってあり、電源線を傷つけないような状態であることを確認してください。
※端部のバリがあると電源線を傷つけ、火災・感電の恐れがあります。





＜標準タイプ(プラグコード付き)の場合＞

- 電源コンセントの位置は、プラグコード(1m)の届く範囲で、床面より高く水のかからない場所に設定してください。

※誤った配線工事は、感電や火災、故障の原因となります。

2. 壁面工事の確認

〔壁材、下地材の確認〕

- キャビネットの取付可能な壁面は図1,2に示す

(1) 乾式壁3種

(2) 湿式壁2種 の以上5種類の壁面のみです。

〔補強木、仕上材の厚みの確認〕

- キャビネットの取付けには、乾式壁の場合、壁面に補強木(幅90mm×厚み30mm以上)が指定の位置(寸法図参照)に必ず必要です。あらかじめ建築施工の際に補強木を設けてください。直接、壁の仕上材にキャビネットの取付けはしないでください。

- 補強木の柱や間柱への取付部材(ねじ等)は、ミラーキャビネットの固定強度(乾式壁の図を参照)と同等以上になるように、種類、数を選定してください。

- 乾式壁の場合は、補強木手前の仕上げ材は取付ねじを補強木に届かせるため必ずトータルの厚みで12.5mm以下のものを用いてください。

- 湿式壁の場合は、AYボルトをコンクリートに届かせるため、モルタル、タイルの仕上げはトータルの厚みで20mm以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めしてください。

〔壁の不陸について〕

- キャビネット取付壁面の不陸は5mm/2m以下であることを確認してください。(キャビネット本体を壁に当て、壁とのすき間が5mm以下であることを確認してください。)

⚠ 注意

この説明書に記載されている以外の壁仕様(ALC壁等)の場合は、キャビネットの取付けをしないでください。

※キャビネットの取付け強度が保てず、落下する恐れがあります。必ず壁の施工のやり直しを行ってください。

お願い

キャビネット取付け壁面の不陸が5mm/2mをこえる場合は施工しないでください。

※鏡がひずんだり割れたりする恐れがあります。

図1 乾式壁

- ボード類直張り
- ボード類胴縁取付け
- タイル仕上げ

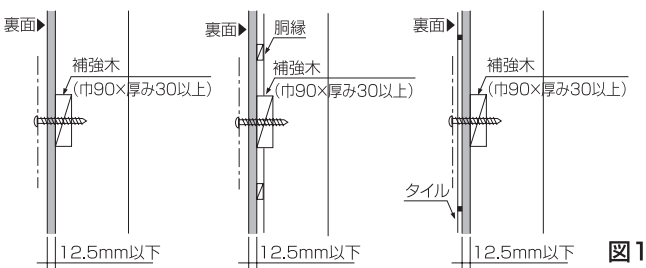
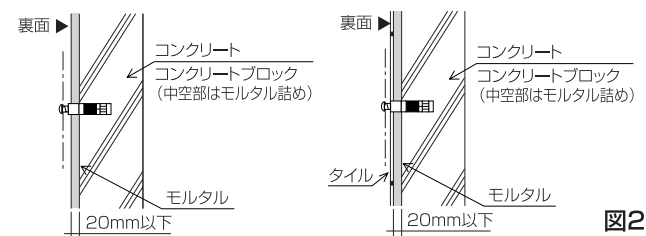


図2 湿式壁

- モルタル仕上げ
- タイル仕上げ



※壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めしてください。

施工方法

1. コードの取り出し

⚠ 警告

プラグコードはコード取り出し口より取り出し、キャビネット本体と壁の間に挟み込まないようにしてください。

※プラグコードを本体と壁にかみ込ませてしまうと発熱や発火の恐れがあります。また製品にひずみが発生し、鏡や扉のひずみなど商品に悪影響が生ずる恐れがあります。

コードを取り出す側(電源コンセント側)のコードを切り欠き部からコードを取り出します。

※コード取り出し口は左・右・上の3ヶ所あります。

左から取り出す場合……………

Aのツメにコードを止めます。

右から取り出す場合……………

Bのツメにコードを止めます。

上から取り出す場合……………

鏡横の立ち面の間を通して、

コードを取り出してください。

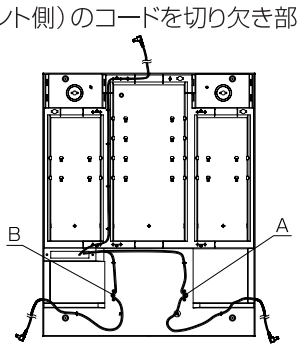


図3

直結配線の方法

電気工事

⚠ 警告

- 電気工事は電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規定に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。

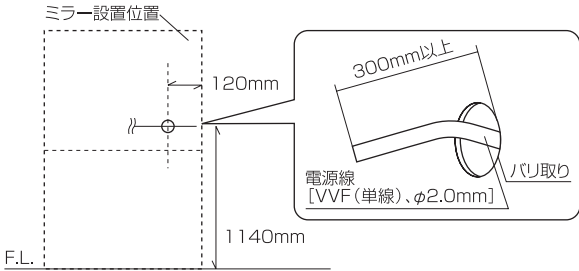
※無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は場合は、火災や漏電を引き起こす恐れがあるほか、関係法令により処罰されることがあります。

- 施工の際は必ずこの施工説明書に記載されている直結配線の方法に従って、接続を確実に行ってください。標準タイプ(プラグコード付き)では直結配線をしないでください。

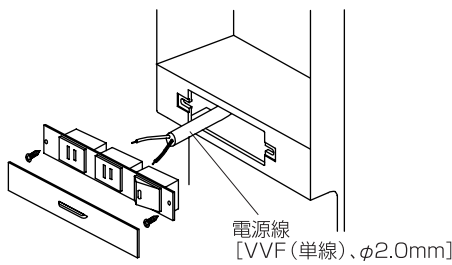
※不適切な接続の場合は、火災や漏電の恐れがあります。

※標準タイプからプラグコードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。

- ①施工前にあらかじめ下記の所定位置に電源線[VVF(単線)、φ2.0mm]を取り出してください。電源線の有効長さを300mm以上にしてください。約φ50で穴あけした端部は電源線に傷をつけないようにバリをとってください。

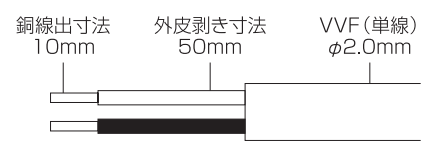


- ②ミラーキャビネットをキャビネット施工業者に取り付けてもらった後に以下のように電源線を取り出してください。

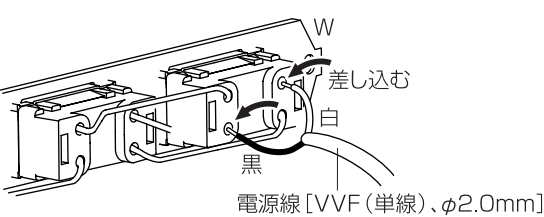


- ③電源線を以下のように加工してください。

VVFケーブルの被覆と外皮の剥き寸法



- ④電源線をコンセントの裏側に差し込んでください。電源線は端末先端が奥に突き当たるまで必ず確実に差し込んでください。確実に接続されているか否か1本ごとにかかるく引っ張り、必ず確認してください。



- ⑤配線を中に収め元通りに取り付けてください。

2. 位置決め

- 洗面化粧台の立ち上がり部が水平であることを確認してください。水平がでない場合はミラーキャビネットも水平に設置できません。また立ち上がり部が床面から正しい高さであることを確認してください。

- ミラーキャビネットは洗面器立ち上がり部に、水平にすき間のないようセットします。(はめこみがきちんとされていない場合、水の浸入がおこりやすくなります。)

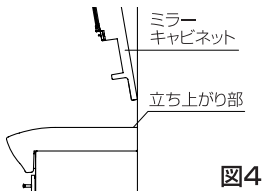


図4

お願い

ミラーキャビネットの幅は、洗面器の幅よりも大きくなっています。ミラーキャビネットを洗面器に設置する際は、ミラーキャビネットのはみだし部分を左右均等になるようにしてください。

※どちらかに偏らせると、隣にサイドキャビネットを設置した場合、すき間が空いてしまいます。

3. 壁固定

お願い

壁固定には必ず付属のねじをご使用ください。

〔乾式壁の場合〕

- 壁固定用ねじ固定部は上下4ヶ所あり、上部は照明部の両端2ヶ所、下部は両端の2ヶ所です。

固定部にはそれぞれ下穴が設けてありますので付属のねじ(トラスφ4.0×50mm)で固定してください。

- ねじ固定後、下部両端の2ヶ所に化粧キャップをはめます。

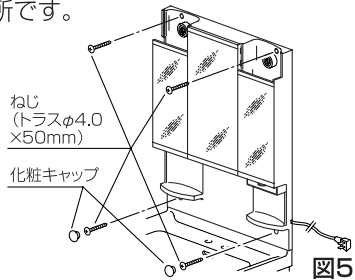


図5

〔湿式壁の場合〕

- 別途手配のAYボルトKB-4×60T (AY) をご使用ください。

(1) 壁面のAYボルトの位置を確認し位置出しします。

(2) 下穴(φ7.5mm)を壁にあげ切粉をよく取り除きます。

※下穴は電動ドリルを使用して正確に開けてください。

(2) AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。

(4) 壁固定用ねじの固定部は乾式壁の場合と同様です。

4. 照明の取り付け

付属品の白熱球(40W、直径55mm×2個)をソケットに取り付けます。

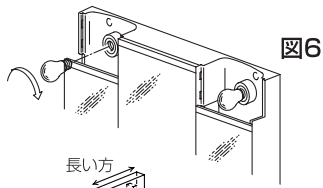


図6

5. 照明カバーの取り付け

(1) 左の照明カバーの取り付け。

①照明カバーの奥行の長い方を左側に持ちます。

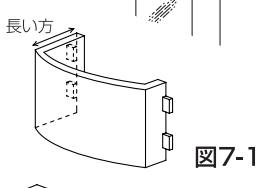


図7-1

②照明カバーの左のツメ部を本体の各穴に差し込みます。

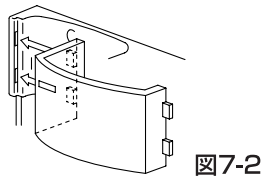


図7-2

③照明カバーの右側を横に押しながら、ツメ部を本体の各穴に差し込みます。

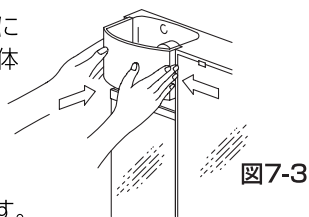


図7-3

(2) 右の照明カバーの取り付け

左と逆の向きで取り付けます。

施工後の確認

■ミラーキャビネット本体の確認

(1) キャビネットの取付けねじが十分に締まって、ゆるみがないことを確認します。

(2) キャビネット自体にガタツキ、壁とキャビネットとのすき間がないことを確認します。

(3) 電源プラグを操作して点灯することを確認します。

お願い

製品についたヨゴレを固くしぼったぬれぶきんでふきとってください。